

（西暦） 2020 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること）

「日本の医療現場における中国人看護師の抱える困難感の実態とバーンアウトとの関連」の研究

学位の種類： 修士（看護学）

東京都立大学大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号：19894702

氏 名：王 亜寧（WANG YANING）

（指導教員名： 習田 明裕）

注：1 ページあたり 1,000 字程度（英語の場合 300 ワード程度）で、本様式 1～2 ページ（A4 版）程度とする。

要旨：

本研究は、日本の医療現場における中国人看護師の抱える困難感の実態とその関連要因を探索するとともに、困難感とバーンアウトとの関連を明らかにすることを目的とした。関東圏の 15 医療施設に働く中国人看護師を対象に無記名自記式質問紙調査を実施した。調査内容は基本属性（12 項目）、中国人看護師の抱える困難感（7 カテゴリー 38 項目）およびバーンアウト（17 項目）であり、71 名（回収率 63.4%、有効回答率 100%）から回答が得られた。

その結果、『日本語能力』『看護の専門性』『健康状態』に関する困難感が高いことが示され、困難感と関連がみられた属性は年齢、看護師経験年数、日本の現場で受けた新人研修期間であった。さらに、困難感とバーンアウトの【個人的達成感】との間に統計学上有意な関連がみられなかった。【脱人格化】【情緒的消耗感】との間に有意な正の相関がみられたため、重回帰分析を行った結果、『職場環境』『人間関係』『看護の専門性』『健康状態』4 変数と【脱人格化】【情緒的消耗感】との関連がみられ、それぞれ分散の 31.8%と 56.1%が説明された。

これらの知見から、病院管理者や看護管理者に対して、中国人看護師への支援のあり方

の示唆を提供できると考える。また、中国人看護師にとって働きやすい職場の環境づくりに役立てられると考える。こうしたことが結果として、中国人看護師の離職防止や定着促進につながり、引いては日本の医療現場での労働力不足の改善へ寄与できると考えられる。